

講義名	マネジメントサイエンス			授業形態	
担当教員	持田 信治	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

本講義は企業活動における意思決定を科学的分析と根拠に基づいて実行することを理解する。更に本講義の主題は本学のディプロマポリシーに沿って、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、論理的な思考に基づいた具体的な改善策や解決策の提案ができるようになることである。企業や組織の運営では様々な問題に直面する。そして問題解決のための効果的かつ具体的な解決方法が求められる。そして問題解決では問題を数値的又は可視化して分析して問題の本質を特定することが求められる。そこで、本講義では問題を分析して解決するための基本的なツールの説明を行い、問題を数値的又は可視化して問題のポイントを特定する力を養い、更に組織の部員と問題を共有するための問題分析、把握能力の習得を目指す。また、本講義では具体的な問題解決事例による演習を通じて科学的な意思決定方法の活用も学ぶ。

到達目標

本講義は以下を本講義の到達目標とする。
 (1) 経営の意思決定に於ける科学的根拠の必要を理解する。
 (2) 経営に於ける意思決定の根拠を科学的に求める手法を理解する。

提出課題

講義の終わりに当該講義に関する小テストを行うことや講義内容に関するレポートの提出を要求することがある。小テスト及び課題の提示と回収はRESPONにより行う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題に対する評価や質問に対しては、必要に応じて次の講義で解説と説明を行う。

評価の基準

本講義の評価基準は以下の通り。
 (1) 評価は講義への参加度合いと課題の提出状況により算出する。
 (2) 授業参加度50点、課題又は試験50点で評価する。
 (3) 課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。
 (4) 授業参加度の確認と小テスト及び課題の提示と回収はRESPONにより行う。

履修にあたっての注意・助言他

(1) 授業の運用方法、評価基準、受講ルール等の重要事項を初回の授業で説明するので、履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。
 (2) 筆記用具を準備しておくこと。
 (3) 講義中の私語、飲食、カバンや飲食物を机の上に並べること及び途中入室、途中退室、携帯電話の使用は厳禁とする。ルール違反者は厳重に対応する。場合によっては退室を命じることもある。
 (4) 講義においては質問を行う等の積極的な参加を期待する。
 (5) ホールタルに資料が取り留められている時は事前に確認しておくこと。
 (6) 講義への積極的な参加を希望する。また講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。
 (7) 遅刻、私語、飲食は厳禁とする。またカバンや飲食物を机の上に並べること及び授業途中での退出はしないこと。最低限のルールができていない学生は、受講を認めない場合もある。また、質問を行う等の積極的な参加を期待する。

教科書

.使用しない.					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし.					
------	--	--	--	--	--

その他

必要に応じて、教材をポータルにUPする。

授業計画

第1回 企業経営の課題とパソコン利用の基礎
 予習：シラバス並びにR Y U K AポータルやキャンパスクロスにUPされた資料があれば確認する(120分)。テキストは1回目に配布する。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。そして復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第2回 統計の基本と企業経営戦略
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第3回 時系列データ分析
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第4回 時系列データ分析(増減率、移動平均)
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第5回 データ分析(ヒストグラム)
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第6回 データ分析(パレート図)
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第7回 データ分析(回帰分析)
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第8回 データ分析(重回帰分析)
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第9回 データ分析(数量化1種分析)中間演習
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第10回 最適化とモデルの作成
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第11回 資源の有効活用(線形計画法その1)
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第12回 資源の有効活用(線形計画法その2)
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第13回 行列と連立方程式
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第14回 乱数とシミュレーション
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイント把握する。疑問があればまとめておく(120分)。
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する(120分)。
 第15回 アンケート処理と講義のまとめ

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

マネジメント力や問題解決手力は現代の企業経営に不可欠であり、マネジメント力や問題解決手力は現代の企業経営の証拠主義に不可欠である。従って、本講義を履修することにより本学のディプロマポリシーに於ける、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、具体的な改善策や解決能力を身に付けることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
 過去のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、科学的管理に向けたポイントを解説する。

備考

問題意識を持って講義に参加すること。